

LGBTの人権

👉 LGBTとは、「性的少数者」の総称である

10人に1人いると言われており、割合はAB型や左利きの人達と同じといわれている。



Lesbian⁽¹⁾

女性同性愛者



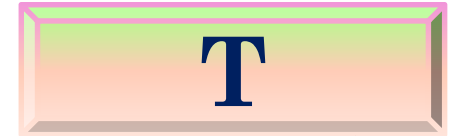
Gay⁽¹⁾

男性同性愛者



Bisexual⁽²⁾

両性愛者



Transgender⁽³⁾

性別不合

- 1) 同性を好きになる
- 2) 同性、異性どちらも好きになる
- 3) 自分の性別に違和感を持っている

👉 LGBTの人の特徴

- ・本人が言わないと分からない。
- ・見た目や仕草、言葉使いでは分からないもの。

医学・保健における位置づけ

☞ 性別不合 (Gender Incongruence)

WHOの国際疾病分類の最新版は、これまで精神疾患として扱っていた性同一性障害を、**障害とは認められない**とし、精神疾患から外し、性の健康に関する分野に「性別不合」(仮訳)として加えた。(2019年5月)

☞ 同性愛は「病気」？ 治るのか？

1990年WHOは同性愛を疾病項目から削除し、1992年、**「同性愛は治療の対象でない」**との見解を示した。

☞ 性別不合 (仮称) や同性愛は「本人の選択」？

多くの人が自然に異性を好きになるのと同様に、心の性の在り方や同性への恋愛感情は**自然に芽生える気持ち**である。

“性は多様性”である

☞性は単一項目で判断できないものである

身体の性、性自認、性的指向、性表現の組み合わせから考えれば、今まで男か女かどちらかと考えていた性のパターンは、ごく1部のパターンでしかない。

☞考えてみよう自分の性について

○体の性（Sex）：性遺伝子、身体つきなど

男性的

どちらでもない

女性的

○性自認（Gender Identity）：自分の性別をどう思うか

男性的

どちらでもない

女性的

○性的指向（Sexual Orientation）：好きになる相手の性別

男性的

どちらでもない

女性的

○性表現（Gender Expression）：服装、仕草、言葉使い

男性的

どちらでもない

女性的

LGBTは、様々な社会問題を抱えている

(LGBT特有の問題) + (一般的な社会問題の背景)

法的保障がない

HIV/AIDS
罹患率が高い

いじめ
ハイリスク層
引きこもり、中退

性別変更難しい

DV

メンタルヘルス
の問題
自己肯定感低い

偏見による差別

不法解雇
就職活動の壁

薬物依存や
アルコールへの
依存率が高い

貧困ハイリスク

地域とのつながり
希薄化

自殺(未遂含)
LGBT自殺率高

日本における主なLGBTへの配慮等

👉男女雇用機会均等法におけるセクハラの禁止

・「おかま」「レズ」「ホモ」という言葉は、セクハラ(差別)用語です。

👉家庭裁判所の審判で戸籍上での性別変更が可能

・戸籍の性別変更できた人 約7000人／性同一性障害患者 約2万2000人

👉各種申請書、公文書等からの不必要な性別欄の削除

- ・精神障害者保健福祉手帳の性別欄の削除
- ・越前市および敦賀市職員採用試験申込書の性別記入欄の削除
- ・越前市、申請書等52件の行政文書から性別欄を削除
- ・県内全市町の投票所入場券の性別欄を文字から記号に変更

👉同性パートナーシップ証明書の発行

・渋谷区、世田谷区、三重県伊賀市、兵庫県宝塚市などで実施されており、越前市職員共済会では、同性パートナーも対象として慶弔規定を改正した。

👉文部科学省から全国の教育委員会に通達

・服装、髪型、トイレ、呼称の工夫、水泳、就学旅行の場面などにおいて、児童生徒に対する配慮の指示や教職員が偏見等をなくすように求めた。

自分らしくいきいきと生きられる社会へ

👉北陸(新潟・富山・石川・福井)では、性の多様性に抵抗がある

* 「男性が男性に恋愛感情を抱くのはおかしい」

52.2% (北陸が全国1位 全国平均43.8%)

* 「近所の人が同性愛者だったら嫌だ」

59.7% (北陸が全国1位 全国平均39.5%)

釜野さおり・石田仁・風間孝・吉仲崇・川口和也 2016『性的マイノリティについての意識2015 全国調査報告書』科学研究費助成事業「日本におけるクィア・スタディーズの構築」研究グループ(代表者 広島修道大学 河口和也)編

周囲と違う自分に違和感を持ち、いじめや差別の対象となるから、誰にも相談できずに悩んでいる人達があります。

LGBTを理由とした不当な差別的取扱いや偏見をもつことなく、一人ひとりの性の多様性を認め合い、誰もが過ごしやすい社会をみんなで作っていきましょう。